

事務事業の概要・計画 (PLAN)

| | | | | | | | |
|----------------|--|------|-------------|-------------------|--|--------|---|
| 事務事業名 | 子ども・子育て支援事業 | 会計名称 | 一般会計 | | 担当課 | 子育て支援課 | |
| | | 予算科目 | 3 款 2 項 1 目 | 事業番号 | 1561 | 所属長名 | 下岡裕基 |
| 事業評価の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ) | | | | 担当責任者名 | 太森真喜恵 | |
| 法令根拠等 | 子ども・子育て支援3法、児童福祉法、伊予市子ども・子育て会議条例 | | | | 実施期間 | 【開始】 | 平成 25 年度 |
| 総合計画での位置付け | 健康福祉都市の創造 次代を担う子供たちの育成支援 | | | | | 【終了】 | 平成 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし |
| 総合計画における本事業の役割 | 総合計画の政策を達成するために、次代を担う子供たちの育成支援を推進した。 | | | | | | |
| 事業の対象 | 子ども及び子どもの保護者 | | | 事業の目的 | 国の基本方針に即して、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の提供体制の確保等の円滑な実施に関する計画を策定するとともに、事業の推進に努めていく。 | | |
| 事業の内容 (整備内容) | 国の基本方針に即して、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の提供体制の確保や円滑な実施に関する計画の策定とシステムの構築を行う。 | | | 昨年度の課題に対する具体的な改善策 | 厳しい財政状況を勘案し、規模を縮小し、更に財源は国・県の補助をいただき、形で改善を行い、実施した。 | | |

事業活動の内容・成果 (DO)

| 事業費及び財源内訳 (千円) | | | | | | | 事業活動の実績 (活動指標) | | | | | |
|----------------------|-----------|--|--------------------------|--------|-------|-------|---------------------|-------|--------|--------|--------|--------|
| 項目 | 前年度決算 | 当初予算額 | 補正予算額 | 継続費その他 | 翌年度繰越 | 決算額 | 項目 | 単位 | 28年度実績 | 29年度予定 | 9月末の実績 | 29年度実績 |
| 直接事業費 | 2,885 | 7,665 | △ 3,733 | 0 | 0 | 2,157 | 子ども・子育て会議開催 専門部会 | 回 | 1 | 2 | 0 | 1 |
| 財源内訳 | | | | | | | | | | | | |
| 国庫支出金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 153 | | | | | | |
| 県支出金 | 0 | 3,500 | △ 2,246 | 0 | 0 | 1,320 | | | | | | |
| 地方債 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| 一般財源 | 2,885 | 4,165 | △ 1,487 | 0 | 0 | 684 | | | | | | |
| 職員の人工(にんく)数 | 0.58 | 0.90 | | | | 0.90 | | | | | | |
| 1人工当たりの人件費単価 | 8,086 | 8,017 | | | | 8,017 | | | | | | |
| ※ 直接事業費+人件費 | 7,575 | 14,880 | | | | 9,372 | | | | | | |
| 主な実施主体 | 直接実施 | | 実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄) | | | | | | | | | |
| 向こう5年間の直接事業費の推移 (千円) | | | | | 30年度 | 31年度 | 32年度 | 33年度 | 34年度 | 5年間の合計 | | |
| | | | | | 9,720 | 9,720 | 6,000 | 6,000 | 6,000 | 37,440 | | |
| 成果指標 | 指標 | 子ども・子育て会議及び専門部会の開催状況 | | | 単位 | 回 | 区分年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 目標 | 毎年度 |
| | 指標設定の考え方 | 計画の策定に辺り、幼稚園、保育所、小規模保育所や地域子ども・子育て支援事業の量の見込み、提供体制の確保の内容、実施時期についての意見を聞くこと及び子育て支援施策の調査審議をする必要があるため、会議開催の回数を指標とする。 | | | | | ⇒ | 目標 | 2 | 2 | 4 | 2 |
| | 指標で表せない効果 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 実績 | 1 | 1 | | | |

事務事業評価 (CHECK)

| 新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過) | | 新規の子育て応援事業については、関係部署との連携を行い、順調に運用できている。 | | | | | | | | | |
|---------------------------------|--------------|---|---|---|---|---|---|---------------------------|--|--------|--|
| 事業 | 自己判定 (担当責任者) | 妥当性 | 目的の妥当性 | 5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 概ね、施策の目的に沿った事業である。 | 5 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | A | 事業成果・工夫した点 事業の苦勞した点・課題 | 子ども・子育て会議では、各種事業の進捗状況の報告を行い、審議・評価を行い、会議で出された意見を計画に反映できるようにしていく。 子ども・子育てフォーラムは、国庫の補助金を使用し、目的にあった内容で実施することができ、来場者にも好評であった。 | | |
| | | | 社会情勢等への対応 | 5 4 3 2 1 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 | 4 | | | | | | |
| | | | 市の関与の妥当性 | 5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 | 4 | | | | | | |
| | | 有効性 | 事業の効果 | 5 4 3 2 1 市は関与しないで、民間や市民団体に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 | 4 | | | | | | |
| | | | 成果向上の可能性 | 5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 | 4 | | | | | | |
| | | | 施策への貢献度 | 5 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 施策推進に向け、効果を認めることができる。 | 4 | | | | | | |
| | 効率性 | 手段の最適性 | 5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 | 3 | | | | | | | |
| | | コスト効率 | 5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 | 3 | | | | | | | |
| | | 市民(受益者)負担の適正 | 5 4 3 2 1 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 | 3 | | | | | | | |
| | の | 一次判定 (所属長) | 妥当性 | 目的の妥当性 | 5 4 3 2 1 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。 | 4 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | | A | 事業の方向性 | ■ 事業継続と判断する。 <input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する <input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する (判断の理由) 子ども・子育て会議は、市が実施する子ども・子育て支援事業の取り組みにおいて、設置しておく必要があり、今後も事業は継続していかなければならない。 |
| | | | | 社会情勢等への対応 | 5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 | 4 | | | | | |
| | | | | 市の関与の妥当性 | 5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 | 4 | | | | | |
| 有効性 | | | 事業の効果 | 5 4 3 2 1 市は関与しないで、民間や市民団体に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 | 4 | | | | | | |
| | | | 成果向上の可能性 | 5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 | 4 | | | | | | |
| | | | 施策への貢献度 | 5 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 施策推進に向け、効果を認めることができる。 | 4 | | | | | | |
| 効率性 | | 手段の最適性 | 5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 | 4 | | | | | | | |
| | | コスト効率 | 5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 | 3 | | | | | | | |
| | | 市民(受益者)負担の適正 | 5 4 3 2 1 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 | 3 | | | | | | | |
| 価 | | 一次判定 (所属長) | 妥当性 | 目的の妥当性 | 5 4 3 2 1 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。 | 4 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | A | 所屬長の課題認識 | | 平成27年度から子ども・子育てフォーラムを開催しており、平成29年度で3回目の開催となったが、市の厳しい財政状況から規模を大幅に縮小し、経費削減に努めた。 |
| | | | | 社会情勢等への対応 | 5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 | 4 | | | | | |
| | | | | 市の関与の妥当性 | 5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 | 4 | | | | | |
| | 有効性 | | 事業の効果 | 5 4 3 2 1 市は関与しないで、民間や市民団体に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 | 4 | | | | | | |
| | | | 成果向上の可能性 | 5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 | 4 | | | | | | |
| | | | 施策への貢献度 | 5 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 施策推進に向け、効果を認めることができる。 | 4 | | | | | | |
| | 効率性 | 手段の最適性 | 5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 | 4 | | | | | | | |
| | | コスト効率 | 5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 | 3 | | | | | | | |
| | | 市民(受益者)負担の適正 | 5 4 3 2 1 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 | 3 | | | | | | | |

| | | | | |
|-----------|------|-------------------------------------|---|--|
| 施策を踏まえた判断 | 二次判定 | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。 | ⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。 | |

| | | |
|------------|------|---|
| 行政評価委員会の答申 | 外部評価 | <p>答申の内容</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> |
|------------|------|---|

今後の方向性 (ACTION)

| | | | |
|--------|-------------------------------------|------------------|-------|
| の経営者判断 | 事業の方向性 | | コメント欄 |
| | <input type="checkbox"/> | さらに重点化する。 | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> | 現状のまま継続する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 右記の点を見直しの上、継続する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 事業の縮小を行う。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 事業の休止、廃止を行う。 | |